

船舶事故調査報告書

令和元年12月18日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突
発生日時	令和元年7月12日 11時45分ごろ
発生場所	福山港箕沖岸壁 百間礁灯標から真方位286° 2.9海里付近 (概位 北緯34° 26.1′ 東経133° 26.4′)
事故の概要	漁船なお丸は、揚網中、出港準備作業中のコンテナ船MUSEに衝突した。
事故調査の経過	令和元年8月15日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A コンテナ船 MUSE（バハマ国籍）、5,403トン 9296470（IMO番号）、CONTINENT MARITIME S.A.（船舶所有者）、興徳海運株式会社（船舶管理会社） B 漁船 なお丸、4.9トン OY3-24157（漁船登録番号）、個人所有
乗組員等に関する情報	A 船長A（フィリピン共和国籍）、締約国資格受有者承認証 船長（バハマ国発給） B 船長B、一級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	A 左舷船首部外板に擦過傷 B なし
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南南東、風速 約3m/s、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の末期
事故の経過	A 船は、船長Aほか17人（全員フィリピン共和国籍）が乗り組み、箕沖岸壁で係留し、出港準備作業を行っていた。 船長Aは、B船が、A船の左舷方約30m離れたところから網を揚げながらA船に接近してくるので、汽笛による注意喚起を行ったが、B船がA船に衝突するのを認めた。 B船は、船長Bが1人で乗り組み、底引き網を揚網中、通常の倍以上の泥等が網に絡まって舵効きが悪くなり、舵取りに意識を向けていたところ、南南東の風に圧流されてA船に衝突した。
分析	A 船は、出港準備作業中、B船が衝突したものと推定される。 B船は、底引き網を揚網中、船長Bが、通常の倍以上の泥等が網に絡まった際、舵取りに意識を向けていたことから、南南東風に圧流されていることに気付かず、A船に衝突したものと考えられる。
原因	本事故は、B船が、底引き網を揚網中、船長Bが、通常の倍以上の泥等が網に絡まった際、舵取りに意識を向けていたため、南南東風に

	圧流されていることに気付かず、出港準備作業中のA船に衝突したものと考えられる。
再発防止策	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 <ul style="list-style-type: none">・ 操船者は、揚網中に泥等で舵効きが悪くなった場合においても、周囲の適切な見張りを行いながら操縦性能の回復を図ること。